

CREATIVE PLATFORM

SPECIAL INTERVIEW

梶原道生

MICHIO KAJIWARA

CREATIVE PLATFORM CAFE vol.5

企業 × クリエイティブ人材

クリエイティブを活用する前に企業として知っておきたいこと

全国のクリエイティブを活用した産業創出に関わる方々をゲストに迎え、定期的に行なわれるトーク&交流イベント『CREATIVE PLATFORM CAFE』。

今年度の第1回目は、福岡を拠点に活躍するアートディレクターの梶原道生さんをゲストに迎え、企業がクリエイティブを活用する前に知っておきたい基本となる考え方やポイントについて、具体的な事例も交えながらお伺いします。「そもそもクリエイティブ人材*の役割って何だろう?」「どういうプロセスで、何をカタチにしてくれるのだろうか?」「企業は何を準備してどういうふうに関わりたいのだろうか?」「予算はどれくらいかかるのだろうか?」そんな疑問にお答えします。

これからクリエイティブ人材との協働に取り組むことを検討している企業の方はもちろん、クリエイターの皆さんのご参加もお待ちしています。

*クリエイティブ人材とは: CREATIVE PLATFORM OITA では、「企業の課題に寄り添い、創造的な手法で課題解決に向けた構想・プランをつくる人材」をクリエイティブ人材と呼んでいます。



[イベント詳細]

ゲスト = 梶原道生 (カジワラブランディング株式会社 代表取締役
九州アートディレクターズクラブ 代表)

モデレーター = 山出淳也 (CREATIVE PLATFORM OITA 編集長)

日時 = 2017年7月4日(火) 17:00~18:30

会場 = 大分銀行 宗麟館 5F会議室 (大分県大分市東大道1丁目9-1)

※会場には駐車場がございません。周辺のコインパーキング(有料)をご利用いただくか、公共交通機関をご利用ください。

参加費 = 無料

定員 = 40名程度

主催 = CREATIVE PLATFORM OITA

[交流会]

時間 = 19:00~21:00

参加費 = 3,000円(税込)

※事前申込みが必要です。

SPECIAL INTERVIEW 8

梶原道生

カジワラブランディング株式会社 代表取締役 / アートディレクター

今回は、大分県日田市出身、福岡県で活躍するアートディレクターの梶原道生さんにインタビューさせていただきました。作り手と使い手との関係性を近づけるデザインのあり方を追求し、クライアントとの対話を重視しながら数々のブランディングを手がけてきた梶原さんに、デザインの役割やデザイナーが考えるべきこと、クリエイティブな視点の持ち方などを具体的な事例も交えながらお聞かせいただきました。

聞き手：山出淳也



山出：梶原さんがアートディレクターとして活動を始めた経緯からお聞かせください。

梶原：知り合いから飲食店のロゴ作成を頼まれたのがきっかけです。当時僕は広告制作会社に所属していたのですが、その仕事を個人的にお引き受けしたんです。クライアントと建築家と私の3者で打ち合わせを重ねるうちに、建築やインテリアやロゴとオーナーさんのやりたいことがピタッと合ってしまったんです。そのお店はだんだん評判になり、2店舗目、3店舗目と増え、いつのまにか福岡で話題のお店になってきました。僕が具体的に作業として関わったのはロゴやツールの制作だけなんですけど、こうした成果を見るうちに「もしかしてデザインには大きな力があるんじゃないか」と考えるようになりました。

山出：その後、独立されたんですね。それまでのお仕事には、このようにトータルで一緒に考えるというプロセスはなかったのでしょうか。

梶原：ありませんでした。クライアントのああしたい、こうしたいという思いを形にするのが仕事だと思っていました。しかし、成長しているクライアントを振り返ると、クリエイティブにとって重要なのは、課題をなくすことだと思っています。課題を解決するだけでは、また何かのきっかけで別の課題が出てきます。課題をなくすということは、つまり根絶するということです。そのためには、もっと遠くや深くを見る視点の持ち方が重要であり、そこにクリエイティブ人材の価値やセンスが問われるんだと思っています。

山出：独立後、すぐにブランディングの仕事はありましたか？

梶原：最初は広告の仕事の売上げのほうが多かったのですが、時代の流れもあり、だんだん増えてきました。中小企業者や個人経営者は、作り手が売り手でもあるケースが多いんです。そういう人たちと対話を重ねることによって、彼らが当たり前のように続けていることのなかに「それ、ちゃんと伝えたほうがいいですよ！」っていう、大きな価値に繋がるファクトが見つかることもあるんです。それを伝えるために、時間や才能を使いたいと思うようになりました。

山出：デザインによって作り手の思いを伝えることもできるということですね。

梶原：そう。作り手の思いを使い手が理解すれば、価格も健全になります。これからのデザイナーには、そういう考え方が重要なんじゃないでしょうか。

山出：どんなにいいものであっても、作り手の思いや中身がちゃんと伝わらなければ、金額で判断するしかありませんからね。

梶原：その部分にクリエイティブ人材が関わって、作り手の物語や付加価値をつけていかないといけませんよ。今は物語が購入の動機になります。物語を作って見せ方をちゃんと工夫しないと、物を売るのは難しいです。それと、生産量とコミュニケーションのことも考える必要があります。無理してたくさん受注しても、話題になったらもっとたくさ



ん作らなきゃいけない。朝から晩まで働いて、結局病気になるっちゃったら、とても幸せとは言えません。そのバランスって難しいですよね。

山出：ブランディングというプロセスでは、具体的にはどうことが起こるのでしょうか？

梶原：まずはリサーチです。客観的に調査・分析し、課題を明らかにします。クライアントにも客観的な視点から、自社の強みや一貫性などを評価してもらいます。お客様の視点に立つことで、ようやくスタートラインに立てるんです。

みなさんリサーチを省こうとするんですが、これは非常に大事なプロセスです。公的な支援金などは、こういうリサーチ費用に使うべきではないかと思えます。

デザインにとってもっとも重要なのは、「課題の見える化」です。課題はすでにある、顕在化されてないだけなんです。一緒に行動するなり体験するなりしながらそれを顕在化し、求めている人にちゃんとヒットするような姿形にして届けたい。極端に言えば、創造力はなくてもいいんじゃないかなと思います。

山出：まずリサーチとヒアリングがあって、課題を明確にする。その次は何をするのでしょうか。

梶原：顧客との関係性を生むためのコンセプトを作ります。言葉にすることによって、骨組みや軸がずれないように、くさびを打つんです。時間が経っても、遠くに行っても、「また戻って来るところ」となる言葉のコンセプトが必要なんです。

山出：コンセプトを作るのに、どのくらいの時間がかかるんですか？

梶原：クライアントさんがいつも顧客に喜んでもらえることを考えている場合はすぐにできます。そうでなければ、半年から1年ぐらいかかることもあります。

山出：コンセプトづくりから一緒に考えてほしいというオーダーは多いですか？

梶原：まだまだ少ないですね。

梶原道生 (カジワラブランディング株式会社代表取締役 / アートディレクター)

大分県日田市生まれ。九州デザイナー学院、アンテナグラフィックアーツ、仲畑広告制作所、広告研究所を経て独立。カジワラ設立。現在は、カジワラブランディングと建築、webチームのシェアオフィスY-SHAREを運営。企業やショップ、商品のリ・ブランディングを手がける。クライアントとの対話を重視し、作り手と使い手の関係性を近くするデザインを開発。九州ADCの代表になり九州のクリエイターの信用向上を目的に行動している。



山出：そういうプロセスが必要なんだということを、まずは理解してもらうことが必要ですね。「まずは相談してみてください」ということですかね。

梶原：その方が早いんですね。クリエイターは、「クライアントの思いや頭の中を見える化する人」と位置付けられたいと思っています。「こういうことを伝えたいから、言葉やビジュアルにして」ってご依頼をいただければ、社長の思いを言葉と絵にしますよ。そうしたら「じゃあ、僕はこんなことします」「私はこんなことができます」って、社員も自然に動けるようになると思うんです。口で全てを伝えようとせずに、文字と絵にして可視化すること。そこにクリエイターを使えばいいと思います。

山出：梶原さんの手がけられたお仕事の中から、福岡県の有明海苔の事例についてお聞かせください。

梶原：ご兄弟で海苔の漁師をやっていたのですが、あるとき弟さんが「市販されている海苔が美味しくない」という話を聞いて食べてみたところ、たしかに自分たちが普段食べている海苔とは全然違って美味しくない。そこで、「自分たちがいつも食べてる美味しい海苔を、みんなにも食べてもらいたい」と、彼は海苔屋を始めました。海苔漁師は販売してはいけないという決まりがあるので、漁師をやめて加工

販売を始めたんです。

そんな経緯をヒアリングし、人々の日常生活のなかに海苔が入っていけるように、お中元やお歳暮っぽいものから、町の雑貨屋さんにもマッチするデザインに変更しました。

山出：贈答用から日常用に、海苔のポジションを変更したんですね。



リブランディング前の海苔のパッケージ

梶原：そのとおりです。容器自体はそのまま、ラベルのデザインを変えただけなんです。制作にかかる経費も変えず付加価値をつけ、今まで道の駅で400円台で売られていたものが、都会の雑貨屋で600円台で売れるようになりました。その200円の差額は、マーケットを変えたことで生まれたんです。

この案件で僕がデザインしたのは、パッケージやシールではなく、商品のポジションなんです。パッケージの形は、その結果から必然的に生まれてきたんですよ。

県内企業 × クリエイティブ人材 『クリエイティブ相談室』が本格始動！

「自社の技術やノウハウを使って新たな分野で商品開発にチャレンジしたい！」

「既存の商品・サービスの販路拡大を図りたい！」

「自社商品のブランディング戦略を見直したい！」など、

CREATIVE PLATFORM OITAでは、クリエイティブを活用した新規事業の立ち上げに関するご相談から、営業・マーケティング・広報等に関するお悩みまで、さまざまな経営課題をクリエイティブの力で解決する『クリエイティブ相談室』を開設しています。特に今年度は、県内企業とクリエイティブ人材（プロデューサー、デザイナー等）とのマッチング機能を強化し、県内企業とクリエイティブ人材が一緒になって、商品やサービスの開発を行うことで、競争力の高い商品・サービスの創出や、新規マーケットの開拓などに繋げていきます。

ぜひこの機会に、クリエイティブを活用した課題解決に取り組んでみませんか？

対象となる企業

大分県内に本社を有する中小企業等（ただし、大分県内で事業を行っている者に限る）。

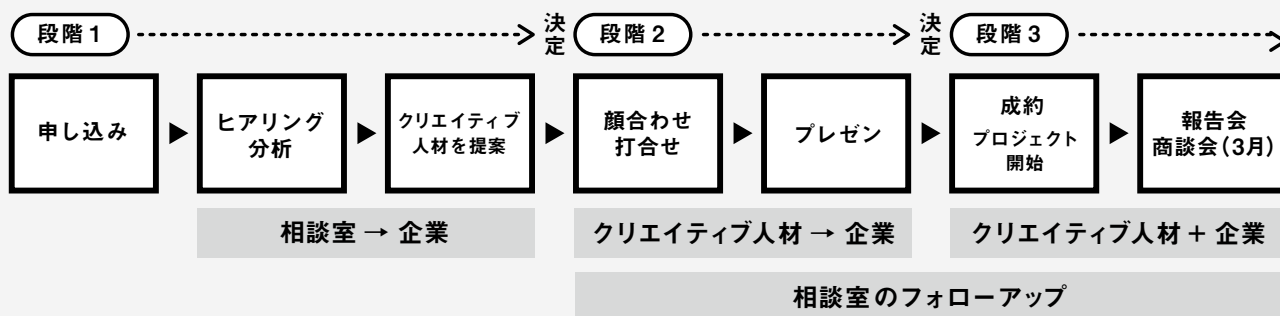
大企業や大分県外に本社を有する中小企業等からの相談も受け付けますが、「相談室のサポート内容」の②は対象外となり、全額相談者のご負担となります。

『クリエイティブ相談室』へのご相談は無料です。

まずはお気軽にお問い合わせください。

お申込み：電話・FAXまたは、Webサイト上のフォームよりお申込みください。

■ 相談室の流れ



■ 相談室のサポート内容

- ① 相談員がヒアリングを行い、企業の状況・課題を分析したうえで、自社にマッチするクリエイティブ人材をご提案します。
- ② 「段階2」において、クリエイティブ人材にかかる旅費及び謝金（ただし、2回分まで）を相談室で負担します。
- ③ 広報や販路拡大のために、全国のマスメディアやバイヤーに向けた報告会・商談会を、2018年3月に開催する予定です。

CREATIVE PLATFORM NEWS とは

大分県ではクリエイティブな手法による新たな産業創出を目指し「クリエイティブ・プラットフォーム構築事業」を実施しています。本事業は、大分県内の企業が有する技術やノウハウに、クリエイティブな発想や考え方を組み入れることによって、競争力の高い商品・サービスの開発や、新規マーケットの創出に繋げることを目的としています。

本紙『CREATIVE PLATFORM NEWS』では、本事業の最新の情報と、全国各地でクリ

イティブリティを活用した事業に取り組む方々へのスペシャルインタビューをお届けいたします。また、本紙で紹介する方々をゲストに迎えるトークイベントや交流会『CREATIVE PLATFORM CAFE』も定期的に開催しています。大分のクリエイティブを刺激する情報の発信・共有の場となるよう、毎回異なるテーマや演出を予定しております。ぜひお誘い合わせのうえご参加ください。

本事業の最新情報は、公式Webサイト『CR

EATIVE PLATFORM OITA』およびFacebook、twitterからもご覧いただけます。

また、メールマガジンにご登録いただくと、イベント情報の先行告知や先行予約などの特典のほか、事業の最新情報や会員だけが読めるスペシャルコラムなどを無料でお届けいたします。

※本紙は、交流イベント『CREATIVE PLATFORM CAFE』開催時に参加者に配布しています。

メールマガジンへのご登録は公式Webサイトから <http://creativeoita.jp>



本紙掲載情報およびイベント参加のお申し込み・お問い合わせ NPO法人 BEPPU PROJECT (担当 川野・横山) 営業時間：月～金 9:00-18:00 tel: 0977-22-3560

発行・編集 発行元：特定非営利活動法人 BEPPU PROJECT 〒874-0933 大分県別府市野口元町2-35 菅建材ビル2階 url: <http://www.beppuproject.com>
発行人：山出淳也 (特定非営利活動法人 BEPPU PROJECT 代表理事)

※本紙は「平成29年度クリエイティブ・プラットフォーム構築事業」の最新情報をお伝えする広報紙です。本事業はNPO法人 BEPPU PROJECT が大分県から業務委託を受けて企画・運営しております。